

北海道出身指導者の活躍

鈴木 木乃実(すずき このみ)さん

現在、北マリアナ諸島の男子年代別代表で監督として指導。
北海道出身。大学院卒業後、北海道で教職に就いた後、サッカーコーチに転職し現在に至る。
現地からコメントが届きました！



指導者を目指したきっかけ

私が指導者を目指そうと明確に決断したのは、室蘭大谷高校（現：北海道大谷室蘭高校）に在学していた2年生の時でした。

それまで私のサッカー人生に関わってくださった指導者の方々、それから仲間の存在のおかげでサッカーに没頭する日々を過ごし、高校2年生の頃には将来ずっとサッカーに携わっていきたいと思うようになっていました。

また、当時女子サッカー部の監督であったブラジル人のアルナルド・フェレイラ・デ・ソウザ監督に出逢い、国籍や言葉の壁を超えてサッカーで繋がり合えることの素晴らしさを教えてもらいました。

姉が高校卒業と同時にニューヨークに移住していることもあって、もともと海外に出ることに興味があった私は、英語は勉強しておいて損はないという考えと、スポーツを強化している高校は、体育教師の割合が多いといった理由から、大学では語学を勉強すること、そして英語教師となって母校に帰り、コーチとしてアルナルド監督のサポートをすることを目標に、大学に進学しました。

教職に就いてから

自分の力不足で教科指導、部活動指導、校務分掌の3つの業務を両立することが難しく、このまま教員を続けていくよりも、サッカーをもっと理解してしっかりサッカーのことを選手に伝えられるようになりたい、サッカーコーチとしてチャレンジしてみたいという気持ちが強くなり、札幌大学での指導を経て、縁あってちふれASエルフェン埼玉のアカデミーで指導する機会をいただきました。





海外指導のきっかけ

前述した海外での活動にチャレンジしたいという思いに加えて、2021年にJFAが主催するA級ジェネラルライセンス講習会で出会った数名の方々が、実際に海外でコーチとして活動されていたこともあります。最初はもう少し経験を積んでから挑戦する方が良いと思っていたのですが、皆さんのお話を聞いているうちに、柔軟さがある今の時期に海外で活動してみたいという思いが強くなっていきました。

そこで、今年は主にヨーロッパでサッカーを学ぶ年にしようと思い、その旨をクラブにお伝えしたのですが、その後北マリアナ諸島でのコーチの募集を知り、ビザの取得に約半年かかることから、その間にヨーロッパに行くことも可能だということがわかり、運命を感じずにはいられないこの案件に、ぜひチャレンジしたいという気持ちが強くなりました。

監督就任へ

男子チームということで、異性の私が監督で大丈夫かどうか不安もありましたが、国の特徴として女性が社会に積極的に参加している背景から、女性が男性チームの指導をしていることもよくあり、また、北マリアナ諸島男子代表監督兼技術委員長の三田智輝さんが現地でサポートしてくださるという心強いバックアップ体制もあり、思い切って応募することにしました。

現在

現地に赴いて1ヶ月が経ちますが、現地の皆さんが温かく迎え入れてくださり、とても充実した日々を過ごすことができています。直感に従っての今回の決断となりましたが、勇気を出して北マリアナ諸島に来て本当に良かったです。現地の皆さんにも、私が来て良かったと思ってもらえるように、これからも自分にできることを日々精一杯取り組んでいきたいと思えます。



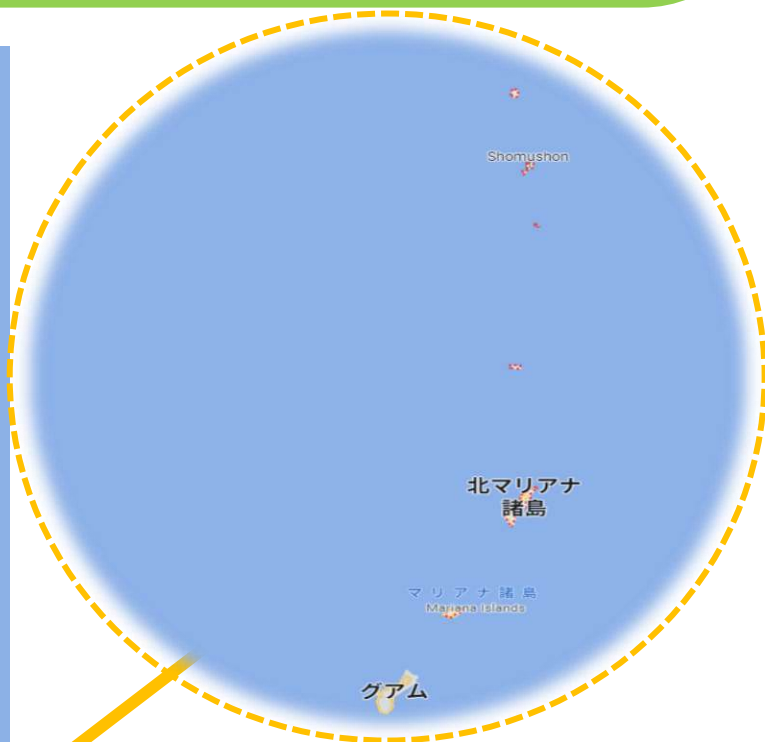


指導者としてのやりがいや理想像

指導者としてのやりがいは、選手が自ら何かを乗り越えていく瞬間に、一番身近で寄り添えることだと感じます。

現在JFAコーチ北海道チーフとしてご活動されている鈴木貴浩さんは、私の中学1年生のときの監督でしたが、当時所属していたチームの中で一番サッカーが下手だった私にも、毎回の練習で声を掛けてくださり、成長できそうな”とき”を見逃さずに褒めてくださり、そのことが当時の私をととても勇気づけてくれました。

私もそんな、一人ひとりに目を配り、ちょっとした変化や、変化しそうな瞬間にも気付き、そのときの選手の状況に適した距離感で寄り添ってあげられるような指導者で在りたいと常に思っています。



2023年10月19日(木)
公益財団法人北海道サッカー協会

